

「よくあてはまる」で評価
()内は「よくあてはまる」「あてはまる」
合わせたポイント

A...とても良好
B...良好(目標)
C...検討が必要
D...再検討・改善

※ 評価の観点による実現状況の達成度判定基準は、A～Dの4段階の基準で評価したものである。
[a...よくあてはまる, b...あてはまる, c...あてはまらない, d...まったくあてはまらない]

※ 判定は、学期の業務遂行状況を教職員による学校評価アンケートや生徒・保護者アンケートの結果をA～Dの4段階の判定基準で評価したものである。また、その分析や改善結果・学校関係者評価について記載した。

Table with 10 columns: 重点, 経営ビジョン, 具体的な取組(重点項目), 質問紙NO., 評価の観点, 達成基準, 4月, 7月(現状), 12月, 結果分析・改善, 学校関係者評価, 次年度に向けて. It contains detailed evaluation data for 'School Management Improvement' and 'Student Education' across various stakeholder groups.

2	生きる力につながる学力をつける	自ら進んで学習する生徒の育成「知」	【1. 達成された姿(ゴール)】 ・家で勉強している生徒	⑧ 生徒	学んだことをふり返ったり(復習)次の授業の見通した勉強(予習)を家でしている。	aの割合 A-60% B-50% C-40%	25(81)	21(87)	07月評価(Check) 【評価・分析】 「よくあてはまる」と答えた生徒は87%だったが、「よくあてはまる」と答えた生徒は21%であり、4月から4%下がり、目標には到達しなかった。1年生の割合の減少が顕著であった。	(前期) 1日たりとも忘れていないというところでAをつける。自分でハードルを上げて行っている。今回の評価は低い、先生たちに「できている」と価値付けてもらおうと次回 の評価が良くなる。
			【2. 具体的な取組(Plan)】 ・ガリガリノート(家庭学習ノート)の書き方の指導、展示 ・ガリガリノート一冊終了ごとに段位認定 ・テスト前にガリガリタイム(全校生徒で学習する時間)を実施 ・テスト前にガリ勉タイム(自主学習時間)の確保	⑦ 保護者	お子さんは、家庭学習に自主的に取り組んでいる。	a+b A-85% B-75% C-65%	74%	74%	【7月評価時点での成果と課題】 ガリガリノートの質は全体的に高まっていることが見てとれる。部活動が本格的になり、帰宅時間も遅くなったことで、1年生においては昨年度とは違って家庭学習が十分に定着していないのではないかと考えられる。家庭学習を充実させることが学力向上にプラスに影響すると考え、課題となる。	
			12 教師	家庭学習の質の向上を図る取組をしている。	a+b A-90% B-80% C-70%	89%	60%	○目標・計画の再設定(Action) 家庭学習の取組は個人差が大きいので、個別に家庭学習の取組について助言したりして意欲を促していく。		
3	豊かな心と健やかな体を育てる	互いの良さを認め合う生徒の育成「徳」	【1. 達成された姿(ゴール)】 ・互いの良い行いや長所を見つけることができる生徒	⑪ 生徒	友達の良い行いや長所を見つけることができる。	aの割合 A-65% B-50% C-35%	49(98)	49(96)	07月評価(Check) 【評価・分析】 生徒、保護者、教師すべての観点で概ね高いポイントとなっており、家庭と学校双方から相乗的に働きかけがなされていると考えられる。「友達の良い行いや長所を見つけることができる」の項目に関しては、「よくあてはまる」と答えた生徒の割合が4月と変わらなかった。「友達に対して思いやりの心で行動している」もそであるが、「あてはまらない」と答えた生徒はおらず、「わからない」という回答であった。	(前期) 掃除を無言でする意味が難しいのではないかと、「そこ汚れているよ」もっと綺麗にしよう」という声かけがあってもいいのではないかと。何でも声に出したほうがやりやすい。もっといいものにしていいのではないかと。声をかけあうことも大事だと思ふ。無言でするなら無言の良さを子ども達が考えて、「さあ、やろう」という形に持って行く機会をつくることも大切である。
			【2. 具体的な取組(Plan)】 ・各学級に道徳コーナーを設置 ・道徳掲示の充実 ・生徒会主催で「とりごえもの羽」(友達の良い行いを伝え合うカード)の取組 ・各学級で行事の後などに、感謝の気持ちや良い行動を伝え合う	15 教師	互いの良いところを見つけ、伝え合うための指導を行っている。	a+b A-90% B-80% C-70%	90%	90%	【7月評価時点での成果と課題】 生徒同士で良いところを見つけ発表し合う「とりごえもの羽」について、生徒の意識が高くなっていることが見て取れる。この活動を行うことによって、生徒の自己有用感を育て、他者への思いやりが自然と生まれるように進めていきたい。	
			⑫ 生徒	友達に対して、思いやりの心で行動している。	a+b A-95% B-85% C-75%	98%	93%	○目標・計画の再設定(Action) 「とりごえもの羽」の取組は浸透しているため、質の深まり・向上を重点的に行っていきたい。3学年の交流の機会があれば、他学年のことについて書いたり、この期間にクラス全員の良い所や長所を見つけて投函しようといった取組も考えられる。また、とりごえもの羽以外に、各学級での取組も行うことでさらに効果的になると考えられる。		
			⑩ 保護者	お子さんは、友達に対して、思いやりの心で行動している。	a+b A-95% B-85% C-75%	93%	93%			
			16 教師	道徳の授業を要とした道徳教育の工夫で、生徒に思いやりの心が育てられている。	a+b A-95% B-85% C-75%	90%	100%			
3	豊かな心と健やかな体を育てる	心と体を鍛える生徒の育成「体」	【1. 達成された姿(ゴール)】 ・きちんとあいさつしている生徒 ・自律清掃で自分の心を磨いている生徒	⑬ 生徒	どこでも誰に対しても自分からあいさつしている。	a+b A-95% B-85% C-75%	95%	87%	07月評価(Check) 【評価・分析】 挨拶に関する項目において「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した生徒の割合が4月から8%下がった。地域とのつながりが深いこともあり、過去数年は90%台であった。自律清掃に関する項目については4月の調査から変わらず、「よくあてはまる」が38%であり、目標を達成できなかった。	(前期) 掃除を無言でする意味が難しいのではないかと、「そこ汚れているよ」もっと綺麗にしよう」という声かけがあってもいいのではないかと。何でも声に出したほうがやりやすい。もっといいものにしていいのではないかと。声をかけあうことも大事だと思ふ。無言でするなら無言の良さを子ども達が考えて、「さあ、やろう」という形に持って行く機会をつくることも大切である。
			【2. 具体的な取組(Plan)】 ・生徒会執行部を中心としたあいさつ運動の実施 ・全校集会での自律清掃に関する共通理解 ・学級日誌への振り返りの記入と記入内容の全体への還元 ・生徒会委員会による横断的運動の立案実行	⑪ 保護者	お子さんは学校や地域で元気にあいさつしている。	a+b A-90% B-80% C-70%	88%	87%	【7月評価時点での成果と課題】 生徒会のあいさつ運動や育友会のあいさつ運動などの成果もあるが、声が出なくなっている実態が伺える。自律清掃については「あてはまる」まで高めると93%と高い割合を示しているが、「よくあてはまる」の割合が上がっていないのは、自律清掃の取組について趣旨が理解されていないのではないだろうか?自律清掃をすることで自分にどのような良い影響があるのかを押し付けていく必要がある。	
			18 教師	進んであいさつができるように指導している。	a+b A-90% B-80% C-70%	100%	90%	○目標・計画の再設定(Action) 取り組みがマンネリ化してきているので、反省会の持ち方を工夫するなどして意識を高めていく。また、生徒会でゴミ拾い等、気付きに関する取組等を行い、清掃の質をさらに高めていきたい。		
			⑮ 生徒	自律清掃(無言、見つけ)を意識して清掃に取り組んでいる。	aの割合 A-65% B-50% C-35%	38(94)	38(93)			
			20 教師	自律清掃(無言、見つけ)を意識した指導をしている。	a+b A-90% B-80% C-70%	100%	100%			
3	豊かな心と健やかな体を育てる	ふるさとに誇りを持つ生徒の育成「家庭・地域連携」	【1. 達成された姿(ゴール)】 ・地域に誇りを持つ生徒	⑯ 生徒	地域に関心を持ち、その良さを理解している。	aの割合 A-70% B-60% C-50%	36(92)	32(89)	07月評価(Check) 【評価・分析】 「地域に関心を持ち、その良さを理解している」の項目では「よくあてはまる」と答えた割合は4%下がったものの、「あてはまる」まで含めた割合は生徒、保護者、教職員の回答は高い評価であった。「地域に貢献したいと考えている」生徒の割合は79%と低かったが、「わからない」と回答した生徒がほとんどであった。	(前期) 「地域の良さを理解している」についても、鳥越以外から来たものにとってはわかるが、この環境が当たり前で育つと「その良さを知っているか」となると「何やるか」という具合になる。「地域に関心を持っている」「地域に貢献したいと思っている」というところは小学校でも取り組んでいるので相乗効果があるといい。あなたたちのこんなところが地域に貢献しているということに自覚していないので、価値付けてあげる必要がある。今後も小中連携で取り組んでいきたい。
			【2. 具体的な取組(Plan)】 ○生徒に地域の良さを知らせ、地域に参画できる生徒の育成 ・白山麓の良さを知り、ジオパークの推進 ・道徳の授業の工夫(地域教材の活用、地域GTの活用) ・運動会、文化祭で地域の文化に触れる ・地域の行事への積極的参加	21 教師	地域に関心を持ち、その良さを理解するように取り組んだ。	a+b A-90% B-80% C-70%	90%	100%	【7月評価時点での成果と課題】 地域とのつながりが強い学校であり、家庭からの期待も高い。生徒の愛郷心をさらに高められるように、学校生活を充実させていく必要がある。また、行事や授業等でできるかぎり地域と連携した取組を行っていく。	
			17 生徒	地域に貢献したいと考えている。	a+b A-90% B-80% C-70%	78%	79%	○目標・計画の再設定(Action) 生徒の愛郷心をさらに高められるよう、地域の資源や人材を学校行事に活用する。また、活動の後は生徒に作文を書かせるなど振り返らせる機会を持つ。		
			22 教師	地域への貢献意欲を高める指導をした。	a+b A-90% B-80% C-70%	80%	90%			